

「あーやばい……  
締めまりすぎだろ……ツ!!」

「フイーちゃん  
気持ちいいんだろ?  
声出していこうぜ(笑)」

「っ……ぐツん……んんツ!!」

「根元から……  
ギチギチと……  
はあく最高……♡」

「薬たっぷり使ったからなく  
どこまで我慢できるか  
楽しませてもらうっか♡」

「ぐっ……ん……ぎっ!!」  
(あ……頭の中……が……)

「つか……俺の方がやばい……いかも……  
こ……腰が……腰が止まらねえ……っ!!」





「ぐ…おお…  
これ…ち…●ぽ溶け…溶ける…つ!!」

「ぐ…ぐっ…ぐん…ぐんッ♡  
(あ…あっ…あだま…溶け…♡)

「どっだった!!?  
どうだオラ!!  
俺のち●ぽ気持ちいいだろ!!」

「いっ…んぐツ…んっ♡  
(イ…イがな…い…  
絶…対に…イが…な…♡)

「あらら  
ファイちゃん大丈夫?  
ま●こそろそろ限界かな?♡」

「ふ…っふ…ツ!!」

「もう…限界…っ!!  
イクぞ!!種付けイクぞ!!  
ファイま●こそ種付けっ種付けしてやる!!」





「孕めっ孕めフイー!!」  
種付けレ●プで孕めっ!!  
俺そつくりのガキ孕めオラあまああっ!!」

「んっんっんっ」

「ぐっ…あ…ああ♡  
射精…止まら…やば…い…♡  
孕め…孕…め…孕みやがれ…♡」

「んっんっんっ」

「んっんっんっ」

「んぎ…っ…んんっんっ…♡」

「お、耐えてる耐えてる  
ガチアへ顔はなんとか回避ってか(笑)」

「ふ…はあ…♡  
種付けレ●プ最高…♡  
つか分からねえな  
気持ちよくなるの何が嫌なんだ」

「ふ…♡  
ふ…♡  
ふ…♡」

「さあ次いくぜ  
またオレの特濃精子注いでやるからな」





—数十分後—

「オラっイけ！イけ!!  
種付けし●プでイけオラああッ!!」

「ひああアアあああッ♡♡」

「お…おおお…  
すっげ…おねだ…り…♡  
そ…んなに…  
オレのガキが…欲しいのか…っ!」

「あ…ああお…っあ♡」

「ん…っふ…  
は…あ…気持ちい…♡」

「い…ああ…♡  
あ…た…すげ…♡」

「お…  
俺はまた口ま●こ種付けとイくか」

「ふ…  
んじゃオレはケツま●こハメるとするか  
まだでけえ声頼むぜファイ♡」

















